

神奈川大学派遣交換留学生 近況報告書（初回）

所属	外国語学部	国際文化交流学科	学科 専攻
派遣先大学 (国)	デュースブルク・エッセン大学 (ドイツ)		
所属プログラム・ 学部・研究科	IN-EAST 東アジア研究		
報告書提出日	2019年10月25日		
留学予定期間	2019年10月～2020年3月		

1. 渡航について

1.1. 出発前の準備

出願料・宿舎デポジット： 940 (ユーロ) /合計

航空券代： 161,820 (円) /合計

ビザ申請関連費： 100 (ユーロ) /合計

その他 (シュペアコント)： 1,785 (ユーロ) /合計

ビザ取得の際に残高証明書は必要でしたか？ はい いいえ

神奈川大学からデュースブルク・エッセン大学 (以下、UDE) の留学の合格証を受け取った後、5月初めに UDE の入学のためのオンライン申込書の案内メールが届く (期日 6月1日まで)。6月17日に UDE から神大を通して、受入許可証が届く。同日に入寮手続きの案内が届く (期日 6月24日まで)。※入寮の申し込みの際、UDE から届く確認メールの URL に飛ばなければ、申し込んだことにはならないので注意。一週間くらいで UDE から申し込み完了のメールが届く。7月24日に寮の予約金 600€ の支払いの請求が来る (期限 8月2日) 8月19日に初月の寮費の請求が来る (期日 9月2日) ※予約金も寮費も国際送金でドイツの口座に振り込むため、平日の銀行でしか出来ないこと、振り込むために必要な書類を事前に書いた方がいい。ゆうちょ銀行の方が、融通が効くと思われる。8月下旬には寮からの書類に直筆サインをし、郵送をする。

1.2. 渡航について

プロジェクト開始予定日は10月4日から始まる予定だったが、前日の3日はドイツの祝日で10月4日にしか入寮できなかった為、10月1日にデュッセルドルフのホテルに2泊3日で泊まった。行きはヘルシンキ経由でデュッセルドルフ空港に向かった。現地では、学生バディと友人が迎えに来てくれていた。移動手段は、モノレールと電車で、19時以降で学生バディと一緒にいた為、運賃は掛からなかった。(ドイツ学生のサービス)

2. 到着後の手続きについて

2.1. 寮・ホームステイ等への入居手続き

入寮の時、日本で寮から届いた寮のレンタル契約書、連邦登録法に基づくアパートの登録の書類、口座振替の委任の書類など、自分が書いた書類もしくは UDE からのサインが書かれた書類は最低限印刷してこること。入寮で寮の管理人に鍵をもらいに行くときそれらが必要となる。また、鍵を受け取りに行く時、事前に寮の管理人にメールで鍵の受け取りの予約が必要。入寮の時は主にバディが対応してくれるので、質問があればバディと連絡をとって確認すること。

2.2. 滞在許可・外国人登録の手続き

VISA の取得には外国人事務局の予約が必要。パスポート、証明写真、財政的証拠、などが必要だが、神奈川大学の 8 万円の奨学金の証明だけでは財政的証拠としては不十分であり、銀行 (Sparkasse) でシュペアkonto という凍結口座に、金銭的余裕の証明に足りない分を入金しなければならなかった。その金額は 2019 年 10 月現在で (853 ユーロ×滞在月-8 万円分ユーロ) であった。この情報や仕組みは神奈川大学からも UDE からも十分な情報が得られなかったため、注意が必要。VISA を取るのにもシュペアkonto を作るにも銀行の予約が必要のため、とても厄介である。授業前に終わらせるようにバディと確認し合うことがのぞましい。シュペアkonto に滞在証拠となる金額を振り込み、それを外国人事務局に送信しなければ話が進まないため、VISA 取得するには時間がかかる。また、VISA のカードを受け取る際に 100€が必要。※日本のマイナンバーも忘れずに持っていくこと。お金をシュペアkonto に入れる時、海外キャッシングや国際送金でドイツの自分の口座に入れるのだが、親と国際送金についての確認や海外キャッシングができるカードの確認をした方がいい。クレジットカードでキャッシングしようとする設定がされてなくて現金が下せない事態が多く起きた。

2.3. オリエンテーション・学生登録・プレイスメントテスト等の学内手続き

学生登録や IOS プレイスメントテストの日程は神奈川大学の国際センターから連絡のメールが届いた。学生登録とテストは 10 月 7 日に行った。学生登録でもらう資料にはやることリストも書かれているのでバディと確認する必要がある。テストは、長文の中の単語の穴埋めだが、単語が変なところで切れているため戸惑う。そして戸惑いと制限時間で予想より点数が低くなるかもしれないが、問題が悪いという説もあるので、切り替えも大事。(補足: 単語の空白を補い、完全な単語にする問題。この形式は日本で行わないような問題なので戸惑う。また、振り分けられたクラスが自分の持っている海外でも有効な資格よりも下になってしまっても、先生にその証明を提示して相談すれば上のクラスに引き上げてくれる場合もある。)

3. 目標について

3.1. 留学の目的、達成目標

実用的なドイツ語の向上 (コミュニケーション能力や語彙力) とドイツ文化の理解を深める事である。ドイツ語の向上は、具体的には神奈川大学のドイツ語授業で学んだ基礎をもとに会話ができる様に頭の中で文を作り、実用出来るところまで向上させる事が目標である。その為、特に語彙力の向上に力を入れたい。日常でよく使う単語の他、ドイツ 3 級までの単語 (約 1500 語) を覚え、会話で使いこなせる様になりたい。ドイツ文化の理解は、ドイツ人と交流する事で見えてくる日本との差異や

ヨーロッパの歴史背景、興味深い点を多く見つけ、それを発信したい。現時点で発見したことといえ
ば、「meine oma fährt im hühnerstall motorrad」などの日本と感覚の異なる変わった内容の童謡や
学生は約3万円の施設費用だけで1年間の地区内の交通手段（バスやトラム、地下鉄や電車など）の
料金が無料になる点である。また、まだこのルールを正確に理解は出来ていないが、19時以降は同
乗する学生でない方も一人分無料になったり、土曜日はもう一人分無料など、学生に優しい仕組みが
多くある。このような住んでみなければ分からないドイツ文化を感じ、発信したい。

3.2. これまでの学習・研修目標および達成度について

ドイツに来て、留学のために必要だったドイツ語検定の資格学習で基礎は理解出来ていたが、神奈川
大学の大学2年生までの週2の必修授業だけではドイツのドイツ語で行われる授業についていけない
レベルだという事がわかった。大学からドイツ語を学び始めた人にとってはドイツ語の授業を取るよ
りも前に、生活のなかでドイツ人とコミュニケーションを取る事も聞き取る事も難しい。他大学のドイ
ツ語学科でさえ、やっとドイツ語を利用する時に躊躇なく会話しようと試みることができるレベルだ。
そのギャップを理解した上で、日本で事前に語彙力を増やすべきだった。

今は生活に必要な語彙を増やし、日本で学んだ基礎を踏まえた上でリスニングからすぐに理解へと
繋げられるような頭の回転ができるよう心がけている。具体的には、助動詞や過去形の文を聞いて理解
し、会話できる様にする、などである。

3.3. 今月の学習・研修目標

ドイツ語の基礎はあっても語彙力と実践力がないと結局ドイツ語での授業をとり、理解することは
難しいため、授業の数を制限し、ドイツ人とのタンデムでドイツ語と文化の理解を深める事にした。
ドイツ人の日本語能力を大雑把に三段階にし、日本語がよく分かる人にドイツ語授業のサポートを、
分かる人にドイツ語の実践と解説を、これから学ぶ人とは積極的に会話をする、などといった形で授
業外でも学習を進めていく。

4. 学修について

4.1. 授業時間割

現在の学期	前学期
月	(Tandem12:00-16:00),DAF0_Deutsch A1(16:00-19:30)
火	Kreuzzugsliteratur(12:00-14:00),Tazen(18:30-19:30)
水	(Tandem13:00-16:30)
木	Einführung in die Literaturwissenschaft InEast(10:00-12:00),(Tandem15:00-18:00)
金	
土	
日	

4.2. 授業について

*DAF0_Deutsch A1 は基礎的だった為、正直すでにドイツ語の勉強している身としては少し簡単に
感じたが、日本より遥かに授業スピードが早い。復習として受けつつ、自分の学習スピードを実践と共
に上げていくにはちょうど良い。

* **Kreuzzugsliteratur** では十字軍の歴史の授業である。授業は単語も難しい為、理解度は低い為、事前に十字軍の歴史をおさらいしておく事で、授業中に何について話しているか理解しながら取り組む事ができる。また、先生が以前独協大学のドイツ語講師をしていた事があった為、理解するための資料の提供に協力的であった。

* **Tazen** はダンス授業であり、多少の語彙力がなくとも受けられる。

* **Einführung in die Literaturwissenschaft InEast** は留学生向けのドイツ語文学の解説などの授業であるが、ドイツ語を理解し積極的に発言するには難しい。ドイツ人のサポートを得ながら、復習をし、理解を深めている。

4.3. 予習・復習・自習について

* **DAF0_Deutsch A1** は日本での基礎知識があれば授業を理解することができる為、予習復習は教科書があれば問題ない。

* **Kreuzzugsliteratur** は日本語で十字軍の知識をつけてから授業に参加している。分からない単語があれば、授業後先生に質問している。

* **Einführung in die Literaturwissenschaft InEast** は板書を取り、授業後にドイツ人とおさらいをしている。また宿題も一人でやるには厳しいところがあるので、サポートを受けながら行っている。

5. 生活について

5.1. 衣食住について

住居	学外寮（その他： ）
----	-----------------

日本の秋より温度が低く季節の変わり目で乾燥しているため、風邪になる人が多くいた。のど、鼻など異なる部位に効く薬を多く持っていく方が良い。葛根湯など。

5.2. 課外活動について

今はまだ日本人大学生を含んだ交流がメインで、旅行に行く余裕がない。休日は授業のおさらいや手続きの準備で終わる。

5.3. 現在までの感想

予想以上に手続きに時間がかかる。またその準備のためのお金の受け取り手段や初月の必要経費が全く見積もられていなかった為、大変だった。シュペアアカウントについては事前の知識があった方が絶対に良い。あと、海外キャッシングの確認は必須である。この時点で、引き出せない、や上限があると精神的ストレスになる。

以上

神奈川大学派遣交換留学生 近況報告書 (12月)

所属	外国語学部	国際文化交流学科	学科 専攻
派遣先大学 (国)	デュースブルク・エッセン大学 (ドイツ)		
所属プログラム・ 学部・研究科	IN-EAST 東アジア研究		
報告書提出日	2019年 12月 19日		

1. 目標について

1.1. 留学の目的、達成目標

ドイツ語の向上について：以前よりは簡単なドイツ語のリスニングやスピーキングの進歩を感じる。しかしながら、依然語彙力不足を感じる。また、日本で学んだ文法の理解は出来ているが、文を頭の中で作るとなるとまだ普通に会話をするには時間と練習が足りない。日本語の話せるドイツ人との交流は交互学習などドイツ語の理解を深めてくれるが、ドイツ人以外の国籍の人との交流はさらに実践の機会が多くあるのではないかと思った。ドイツ文化の理解については、クリスマスと新年の過ごし方が日本と異なるなどの新たな発見があった。日本より家族と過ごす時間を大切にしているとドイツの文化は日本でも大切にしたいものだと思った。

1.2. 先月の学習・研修目標および達成度について

初めの2ヶ月はどんなに単語を聞いてもすぐに聞きとることも、すぐに覚えることも出来なかった。その為、学習の達成感としてはほとんど感じられなかった。ドイツ人の会話や看板など生活の中から単語を検索して身につけるように心がけた。今は簡単なドイツ語の会話や全ての単語を理解することが出来なくてもニュアンスで理解することができるようになってきている。また、少し時間をかければ頭の中で文を作ることもできている。そして単語の習得も以前より覚えやすくなっている。これからは、単語の種類をいくつか覚えていて言いたい時にすぐ使うことが出来るように心がけたい。

1.3. 今月の学習・研修目標

ドイツ語会話で助動詞の活用と名詞の性による形容詞の変化、過去の文、接続詞の活用を重点的に使っていきたい。単語は覚えることだけでなく、アウトプットを意識して学習したい。

2. 学修について

2.1. 授業について

*DAF0_Deutsch A1 は、授業スピードが早い。2ヶ月で助動詞まで学習している。日本で文法をしっかり復習していれば問題ない。ただ、やはり話すことに慣れていないので、その部分はタンデムなどで話す練習の機会をつくる必要がある。

* **Kreuzzugsliteratur** この授業では、ただ十字軍の歴史ではなく十字軍に関する出来事や詩人、文学などを取り扱っている。理解度は低い。しかし、インターネットである程度は復習することができる。

* **Tazen** は特に変化なし。

* **Einführung in die Literaturwissenschaft InEast** は日本で学んだファウストなども扱った。一人一回はプレゼンをしなければいけない。授業中に内容を理解することは難しいが発言するチャンスはあるので恐れずに授業に参加すれば優しく受け入れてもらえる。

2.2. 予習・復習・自習について

* **DAF0_Deutsch A1** は以前と変わらない。単語の習得は必要。授業の他にスピーキングの練習をすればなお良い。

* **Kreuzzugsliteratur** は授業中にできるだけ内容についていく必要がある。予習復習したほうがいい。

* **Einführung in die Literaturwissenschaft InEast** は板書を取り、授業後にドイツ人とおさらいをしている。また宿題も一人でやるには厳しいところがあるので、サポートを受けながら行っている。

2.3. 語学力について

簡単なドイツ語の会話はわかるようになってきた。しかし、単語不足と覚えている単語のアウトプットが難しい。頭の中で文を作るためにも冠詞もセットで覚える必要があるが、逆にその部分を克服すればよりコミュニケーションが取れるのではないかと期待している。また、ドイツ人だけではなく他の国籍のドイツ語学習者とも交流することでドイツ語の使用頻度が増え、向上には効果的であると思う。

3. 生活について

3.1. 衣食住について

住居	学外寮（その他： ）
----	-----------------------

デュースブルクは日本人の多い街デュッセルドルフに近いのでアジア料理の食材を買ったり食べに行きやすい。これはとてもありがたい。また日本のお米が食べなくなったら、ドイツの「ミルヒライス」用のお米が日本の米に近いのでいつも食べている。日本食が食べれるということは多少の不安感を取り除いてくれているのかもしれない。私はありがたいことに部屋の両隣が日本人であった。これは珍しいと思う。人によっては隣人トラブルもあるので、普通何か隣人トラブルがあっても おかしくないと思う。

3.2. 課外活動について

休日はノルトライン・ヴェストファーレン州の交通機関のゼミ生チケットで州内にドイツ人と日本人とよく出かけている。このゼミ生チケットはある州とない州とところがあるらしく、またこの私たちが住んでいる州内はとても範囲が広いのでとても便利である。ドイツはいろんな駅でクリスマスマーケットが多く開催されているため、この11月、12月はクリスマスマーケット巡りで忙しい。

3.3. 現在までの感想

ドイツの外国人事務局の仕事が遅く VISA の取得が難航している。そろそろ3ヶ月が経ってしまいそうである。国外に行けないのは何かと不自由で日本で事前に VISA をとってしまったほうが楽なのではないかと思った。デュースブルクは人が優しくとてもいい街である。日本語を学ぶドイツ人との交流も深い。しかし、最近ドイツ人が神奈川大学に留学する為には N2 取得が条件と異常に高くなり、ここで親しくなったドイツ人はほとんど N2 取得が難しいため、神奈川大学に留学できないと聞いてとても悲しいことだと思った。大学側も日本にいてもドイツ人との交流、ここでの出会った関係の継続に協力的であってほしいと思った。

以上

神奈川大学派遣交換留学修了報告書

所 属	外国語学部	学 科	国際文化交流学科	3 年次
派遣先大学 (国)	デュースブルク・エッセン大学 (ドイツ)			
所属プログラム・ 学部・研究科	IN-EAST	履修言語	ドイツ語	
留学期間	2019年10月～2020年3月			
報告書提出日	2020年4月15日			

1. 学修について

1.1. 学期区分

学期	授業期間	試験期間	履修登録するまでの過程
Winter Semester	10月14日 ～1月31日 (16週)	1月23日 ～3月24日	ドイツ語の履修は、大学のパソコンで試験でグループ分けがされた。他の授業の履修はオンラインで登録する。授業を登録しても途中で止め、消すことも可能。

1.2. 履修科目・内容

学期	履修科目名	合計時間	履修内容・授業での取り組み
		(内訳)	
Winter Semester	DAF0_Deutsch A1	42時間	内容は教科書でその日のテーマに沿ったものを主に先生の講義とペアワークで行う。初回はさらっとアルファベットから始まるが、最後には過去の文法まで進む。提出物はいくつかあった。試験は同レベルの他クラスと合同で行われ筆記試験であった。教室で行われる最後の授業で軽い口頭試験もあった。
		3(時間/回) × 1(回/週) × 14(週)	
Winter Semester	Kreuzzugsliteratur	21時間	内容は十字軍に関わった詩人などから十字軍の時代をみるというものである。形式は先生の講義と生徒のプレゼン、ディベートであった。これはドイツ人のために開かれた授業であったため、ドイツ語のリスニングレベルがある程度なければ理解は難しい。また、取り扱う人物は日本で知られていないマイナーな人物が多かったため、インターネットで情
		1,5(時間/回) × 1(回/週) × 14(週)	

			報を集めるのも容易ではない。テストは留学生用に準備され、十字軍に関する基本的な内容が数問出された。
Winter Semester	Einführung in die Literaturwissenschaft InEast	21 時間	これは、IN-EAST の留学生に開かれた授業であり、ドイツ文学についてである。内容は、主にドイツ文学の分析である。テストは、ある一つの作品の抜粋からどの形態のどのジャンルの作品か、また隠喩を説明するものであった。
		1,5(時間/回) × 1(回/週) × 14 (週)	
Winter Semester	Tazen(18:30-19:30)	11 時間	内容は、ダンスのジャンルを何週かに分けられ先生にしたがって踊る。ダンスはジャズやバレエの要素が含まれたもので、初心者向けで恥ずかしさや自分を開放するような指導であった。
		1(時間/回) × 1 (回/週) × 11(週)	

1.3. 学修する上で心がけていたこと、予習復習の仕方について

授業の復習は予習よりも行うようにした。予習は授業であまり次回の内容についての説明がないので、予習するとなると範囲が広く、難しいため、予習の代わりに語学に慣れることを心がけて生活していた。復習では、授業内容の確認と理解を深めるためにいくつかの情報集め、また言語の授業ではスピーキングのテストに向けて同じクラスの留学生と共に対話練習をした。

1.4. 語学力について

留学前は基本的な単語や文法を知識として知る程度しか準備ができていなかったが、留学終了時には生活するにあたって表示されているドイツ語や、簡単なドイツ語の文章の読解、聞き取りはニュアンス程度だが自然と理解するまで上達した。

留学中は食材や生活する上でよく見る単語からドイツ語に染まるように意識して勉強をした。スマホ内にドイツ語辞書を購入し、食材の種類や駅のアナウンスなど分からないことや気になったことをすぐに調べ、またそこから文法の気づきを得ることで、日々の学びと並行してドイツ語学習の楽しさを感じた。

2. 留学の成果を振り返って

2.1. 学修の成果

ドイツ人向けに開かれた授業に加わりたならば、日本の大学の必修ドイツ語の授業だけでは難しいことがわかった。基礎文法がわかっているにもかかわらず、それを使うことに慣れるのは容易ではない。しかし、半年間留学の低いレベルからのスタートであっても、ある程度の文章を読むことは出来るようになっているので、留学する価値は十分にあったと感じた。また、IN-EAST の留学生向けに開かれたドイツ文学の分析の授業は、ドイツの学校でよく行われている科目らしく、歴史深いドイツの文学や文化も学ぶことが出来た。

2.2. 学修面での反省点ならびに留学志望者へ学修面のアドバイス

留学前に日本でドイツ語レベルをもっと上げるべきだったと思う。ドイツ語で行われる一般の授業を取るのであれば、必修以外のドイツ語中級などもとっておいたほうが良い。

文法を理解していても頭の中で長文をつくったり、リスニングに慣れるのは結構時間がかかるので日本にいる時からドイツ人との交流に参加したり、日記をドイツ語で書いてみるなど日々の地道な慣れが必要になると思う。

2.3. 留学生活で得られたもの

一人で行動することの重要性、また外国人、日本人同士の間関係の難しさを学んだ。好奇心や探究心を持って行動するのは海外ではより勇気のいることだが、それは非常に自分を成長させ、日本にいる時よりも達成感を与えてくれる機会が多くあった。そして非日常を過ごす面白さによって、自分の視野が広くなり、また自分の将来への行動範囲の可能性を感じることができた。社会人になってからまたもう一度、留学をしてみたいと思った時には、社会の常識に縛られずに積極的に海外に行き交流できるのではと感じた。

2.4. 留学生活での反省点ならびに留学志望者へ生活面のアドバイス

日本人同士で固まらないこと。ドイツ語や英語に自信がないと日本人とまとまりがちだが、ただでさえ少ないコミュニティに自分の性格と合う日本人を見つける事は難しい。また一度固まってしまうと、抜け出してしまうことも躊躇してしまう。外国人と日本人の関わる配分や関わり方を初めのうちに意識する事で留学生活がより良くなると思う。

バディでよく交流をしてくれるドイツ人のほとんどは日本語を話せるので日常的に使用する言語が日本語とドイツ語の半々くらいの割合になっていた。それでは英語の使用頻度が低く、他の国の留学生と交流したいと思っても、いつの間にか英語が思い出せなくなってしまっていたのがとても心残りである。仲良くしてくれるドイツ人も日本語を学びたいと思ってきているのでとても頼りにはなるが、半年間の留学ではドイツ語に慣れた頃の帰国となり、英語もドイツ語も中途半端になりかねないので、その交流関係の区切りはしっかり決めておいたほうが良いと思う。

派遣交換留学中の生活等に関する調査

記入日	2020年4月15日	
派遣先国	ドイツ	
派遣先大学	デュースブルク・エッセン大学	
留学先での所属学部	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等 学部名：(IN-EAST) <input type="checkbox"/> 語学研修 <input type="checkbox"/> その他 ()	
本学での所属	外国語学部	国際文化交流学科・専攻
学年	3年次 (留学開始時の学年)	
	3年次 (留学終了時の学年)	
留学期間	留学開始年月 2019年10月 ~ 留学終了年月 2020年3月	
	留学期間 6ヶ月間	

I. 留学先での住居について

1	住居形態は 何でしたか？	<input type="checkbox"/> 学内寮 <input checked="" type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ()
2	部屋の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋 (同居人数)
3	住居形態の詳細を教えてください。	(部屋は個室。シャワー、トイレ、洗面台が隣の部屋と繋がっていて二人で共有。キッチンと同じ階のある区画で約 10 名くらいで共有。)
4	入居時手続き	(日本にいる時にデポジットなどの初回費用の初月家賃の支払い。入寮する際、事前にハウスマイスターにアポイントを取り、面会した際鍵をもらう。)
5	費用 (月額)	(約 42,500 (340€))
6	食費 (月額)	<input checked="" type="checkbox"/> 自炊 <input type="checkbox"/> 食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 外食 <input type="checkbox"/> その他 (約 1万5,000~2万5,000 円)
7	支払方法	(デビットカード、現金など)
8	住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 洗面所 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ(共同) <input type="checkbox"/> トイレ(個別) <input checked="" type="checkbox"/> シャワー(共同) <input type="checkbox"/> シャワー(個別) <input type="checkbox"/> 浴槽 <input type="checkbox"/> 冷暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> ジム <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯機 <input checked="" type="checkbox"/> 乾燥機 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (暖房のみ)
9	住居選択方法	<input checked="" type="checkbox"/> 大学に申込 <input type="checkbox"/> 留学先大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者・新聞を通じて <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他()
10	周囲環境	(寮を出てすぐにバス停がある。歩いて行ける距離にいくつかスーパーやドラッグストア、薬局がある。バスやU-Bahnを使えばもっと楽になる。)
11	アクセス	(最寄駅から徒歩約13分、学校まで徒歩約18分、バス約10分。)
12	留学中の住居に関してアドバイス	(ベットカバー類やタオルは捨ててもいいものを持っていくほうが良い。)
13	詳細を教えてください	(私の両隣の部屋は日本人であった。4階建てでエレベーターはない。部屋は十分広く、クローゼット、机、椅子、ベット、ベットマット、全身鏡、冷蔵庫は個人の部屋についている。)

II. 通信環境について

1	日本キャリアの携帯電話	持参した
2	現地キャリアの携帯電話	現地でSIMカードを購入
3	現地携帯電話の取得手続きの方法	(ALDI というスーパーにて ALDI TALK を購入した。)
4	自宅のインターネット接続環境	無線 (大学または寮への LAN 接続)
5	大学内インターネット接続環境	無線 (大学または寮への LAN 接続)

III. 留学費用について

諸経費 (1ヶ月の平均)		
1	宿舍費	340 /月 備考 (ユーロ)
2	食費	200 /月 備考 (ユーロ)
3	交通費	0 /月 備考 (ゼメスターチケットで移動可能)
4	通信費	0 /月 備考 ()
5	娯楽費	400 /月 備考 (ユーロ)
6	図書費	0 /月 備考 ()
7	学用品 (教科書など)	16 /月 備考 (ユーロ)
8	被服費	50 /月 備考 (ユーロ)
9	医療費	0 /月 備考 ()
10	雑費・その他	125 /月 備考 (ユーロ)
上記以外にかかった大きな金額の内訳 (留学準備期間含む)		
11	出願料・宿舍デポジット	600 /月 備考 (ユーロ)
12	ビザ申請関連費	100 /月 備考 (ユーロ)
13	航空券代 (休暇時旅行費用は除く)	160,000 円/月 備考 ()
14	その他	円/月 備考 ()
15	留学全日程に要した総額 (概算)	最低 110 万 円/合計
お金の持って行き方		
16	<input checked="" type="checkbox"/> 現金 (渡航時: 約 5 万 円) <input type="checkbox"/> 国際キャッシュカード (銀行名:) <input checked="" type="checkbox"/> 海外送金 <input checked="" type="checkbox"/> クレジットカードからのキャッシング <input type="checkbox"/> その他 ()	
17	現地で銀行口座開設	した
18	口座開設手続き方法・利点・欠点	ビザを申請するために口座開設が必須。
19	お金に関するアドバイス	<p>ゆうちょダイレクトやアプリなどを使って自分で海外から国際送金を送れるようにしたり、残高を確認できるように準備したほうがいい。クレジットカードでは海外キャッシングができないので、デビットカードも用意すること。初めての海外でキャッシングできるか分からない日が続く恐れがあるため、最低限何日かは下ろせなくても安心できるくらいのお金は持っていったほうがいいと思う。</p>

IV. 保険・医療について

1	海外旅行（留学）保険の種類	B19 プラン (6か月分で65,180円)
2	留学中に病気・けが等をし、通院・薬の処方を受けましたか？	いいえ
3	日本から持参した方が良かったと思う薬などはありますか？理由はなんですか？	痛み止め(頭痛薬や解熱作用のあるもの。一度熱が上がったから。)

V. 持ち物について

1	日本から持っていったもの シーツカバー、生理用品、タオル、ドライヤー、洗濯ネットなど、他、必需品。
2	現地で購入したもの 電気ポット、枕、掛け布団、カバーなど
3	(自分は持っていかなかったが)日本から持っていったら便利だと思ったもの 調味料など

VI. 留学先で困ったこと

ビザの取得や銀行の手続きなど

VII. その他、後続の学生へのアドバイス

ビザの取得の際、受け取るまで3ヶ月を過ぎることがある。もし外国人事務局からの連絡があればいいが、それすらないことも少なくはない。その場合はバディの人に積極的の相談すること。また一度取りに来て言われ仮ビザをもらう事はあるが、それは一応一度取りに来てと言われた日にちからは有効になっているため、問題はない。しかし、心配であれば大学の日本人留学生サポートをしてきている生徒(4ゼメ以上であるので日本語は問題ない)や日本人の先生に相談したほうが良い。

